

株式会社エージーピー



2009年度(2010年3月期)

第2四半期 決算説明会

2009年11月13日

当社事業の概要

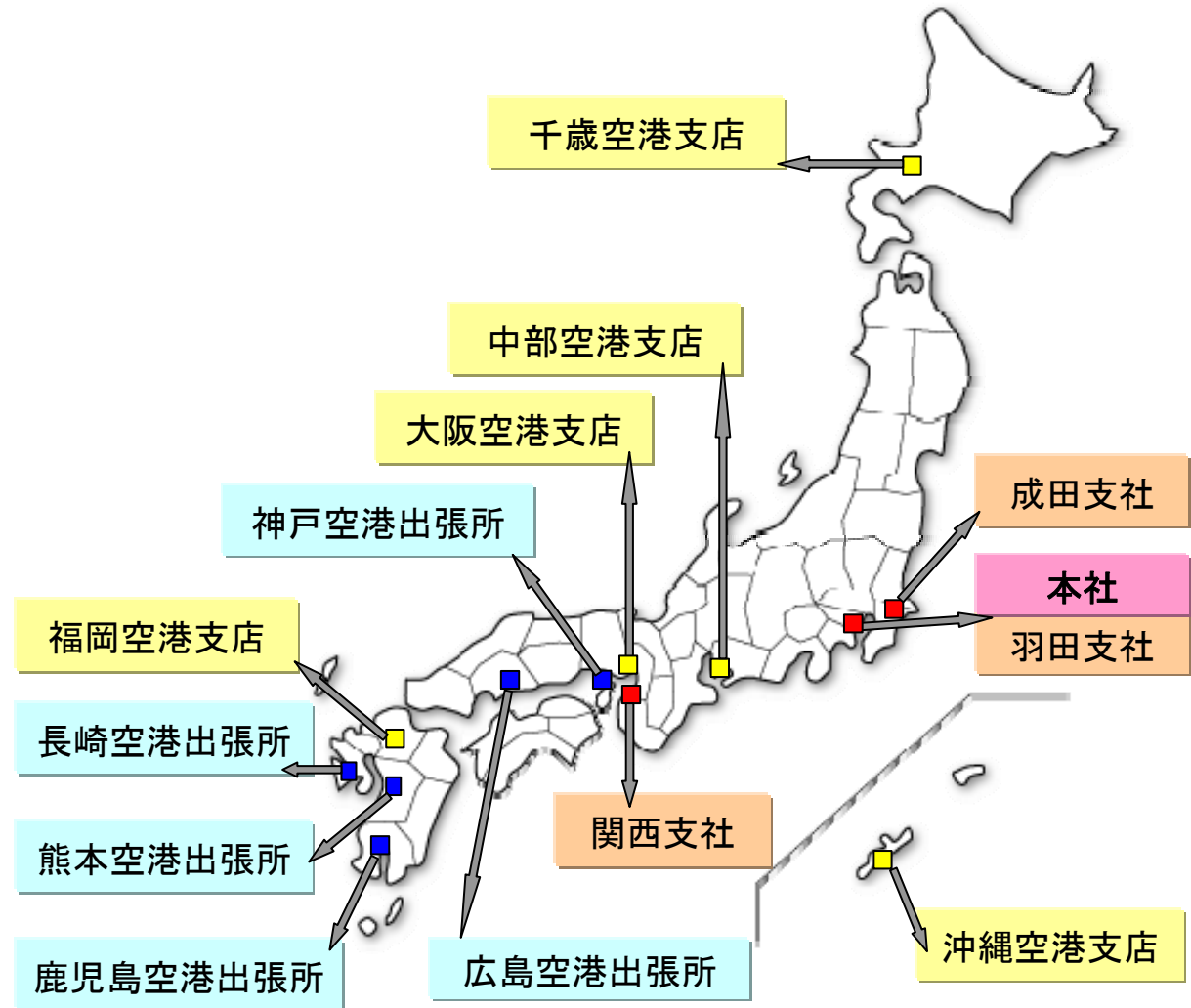
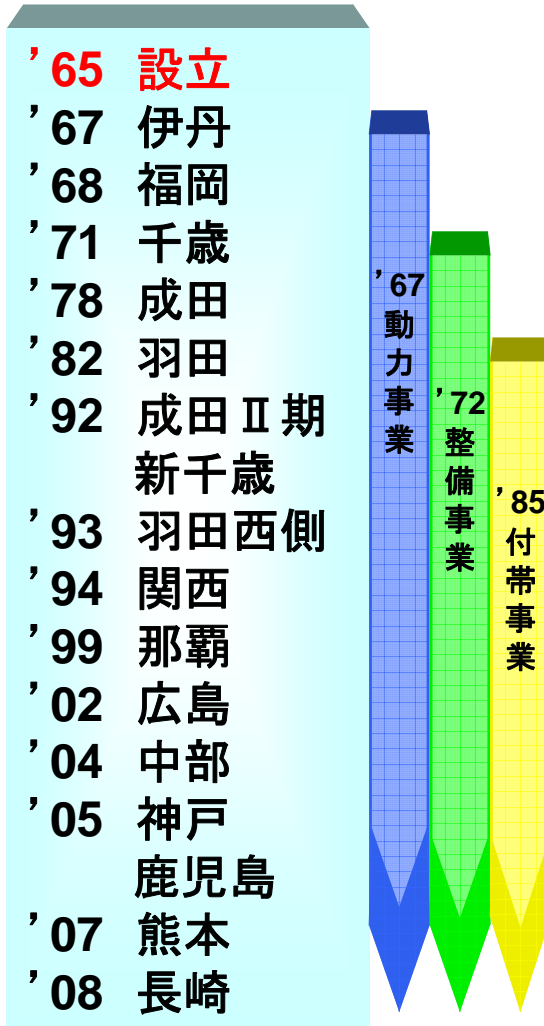
2009～2011年度 中期事業計画

第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

当社発展の軌跡



当社の事業概要

動力事業



GPU(電力供給)



ACU(エアコン供給)

整備事業



手荷物搬送設備(BHS)



旅客搭乗橋設備(PBB)



冷熱源供給設備

付帯事業

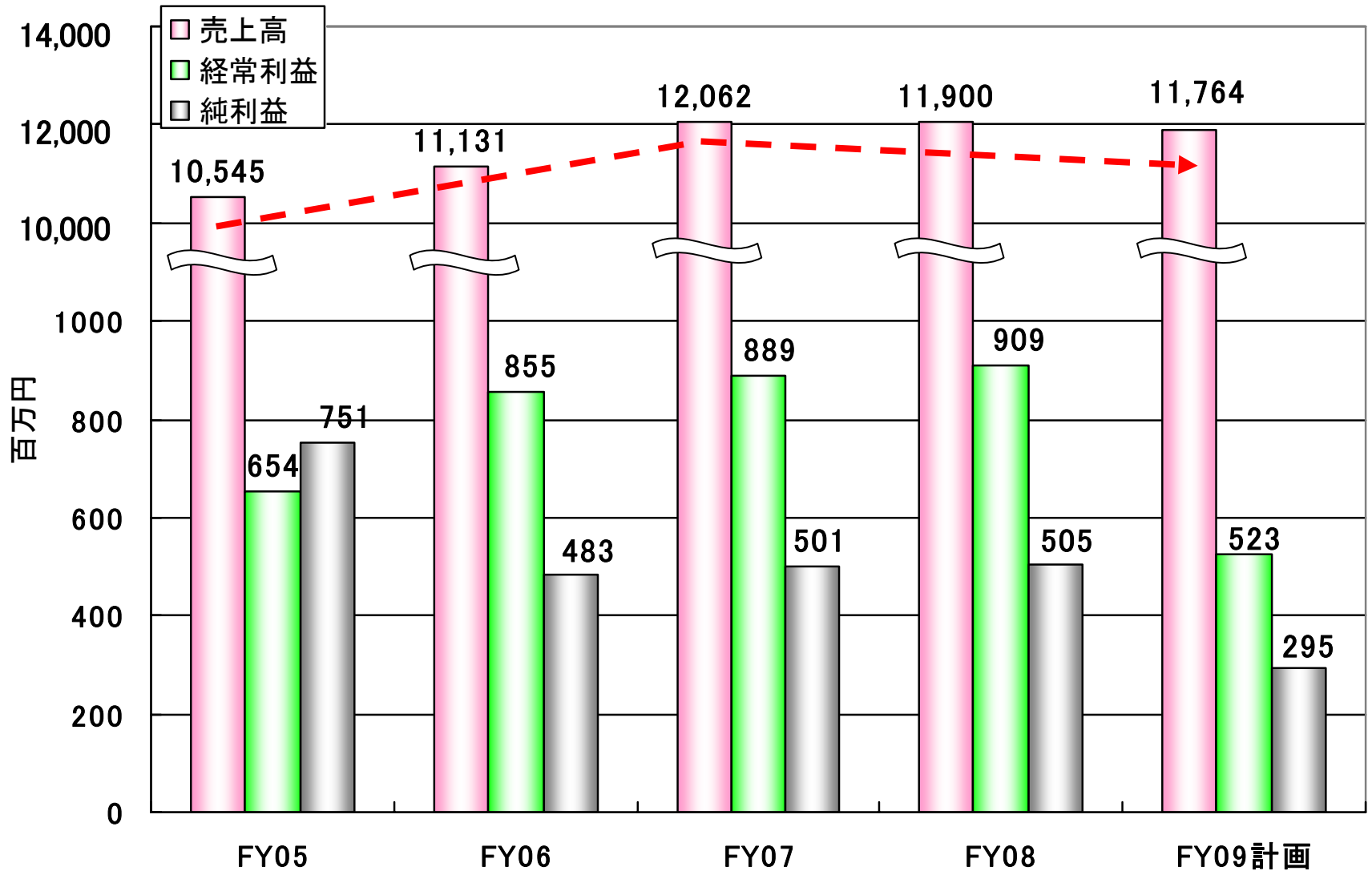


保冷・加熱カート



ブレーキクリーニングカート

業績の推移(連結)



当社事業の概要

2009～2011年度 中期事業計画

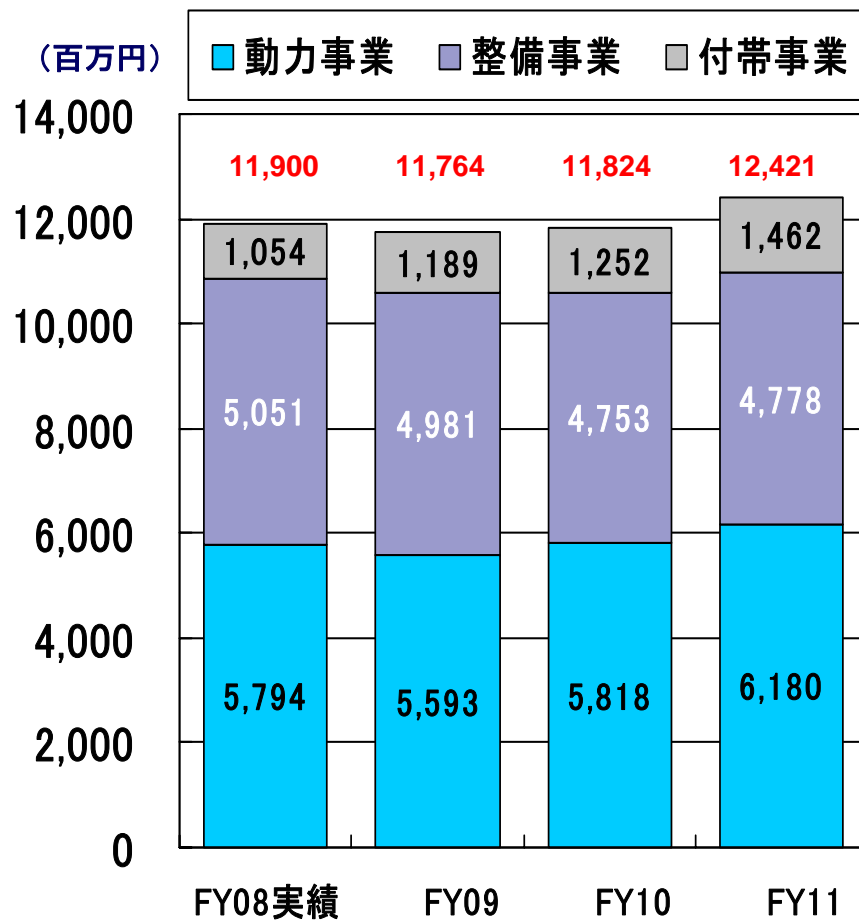
第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

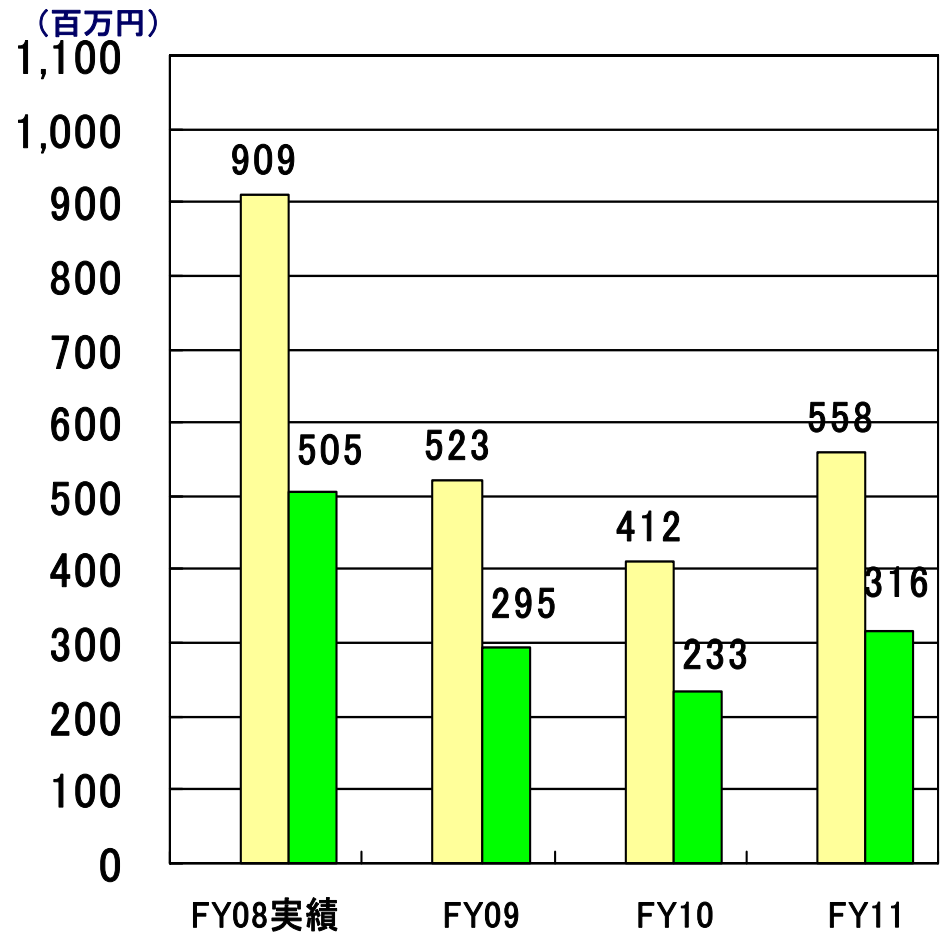
中期収支計画

売上高



経常利益

当期純利益



動力事業①

プラス要素

空港拡張計画の進展

空港拡充計画に沿った設備の増強

2010年3月 成田空港平行滑走路2,500m化により、年間発着枠2万回増

2010年10月 羽田空港第4滑走路供用開始により、年間発着枠段階的に11万回まで増
羽田空港新国際線ターミナルビル供用開始

環境意識の向上

国土交通省が推進するエコエアポート施策

動力供給設備の使用率・使用時間の向上
動力供給設備の使用によるコスト優位性

今後の課題

路線廃止・減便

航空会社の路線見直し等の動向に細心の注意

路線廃止・減便を考慮し、低供給率の外国社を中心とした販促

機材の小型化

機材ダウンサイジング推進による収益率の低下

機材小型化による使用時間増加の営業強化

設備投資の増加

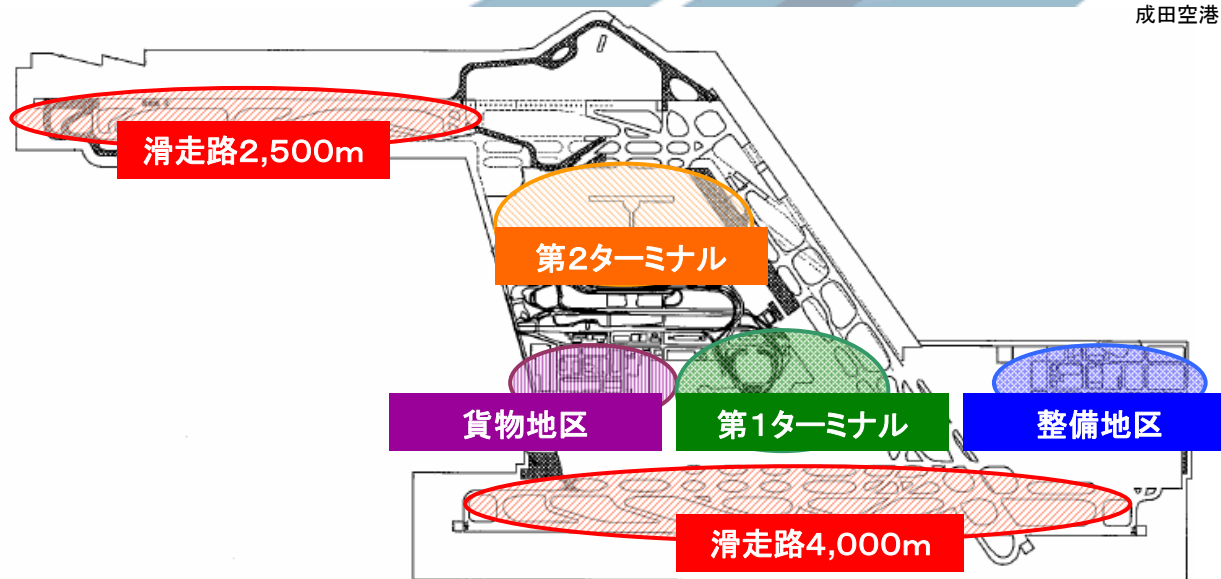
新型航空機(エアバスA380、ボーイング787)への供給設備の大型化

新型航空機の就航状況を勘案しながら計画的な更新投資

動力事業② 成田空港概略図

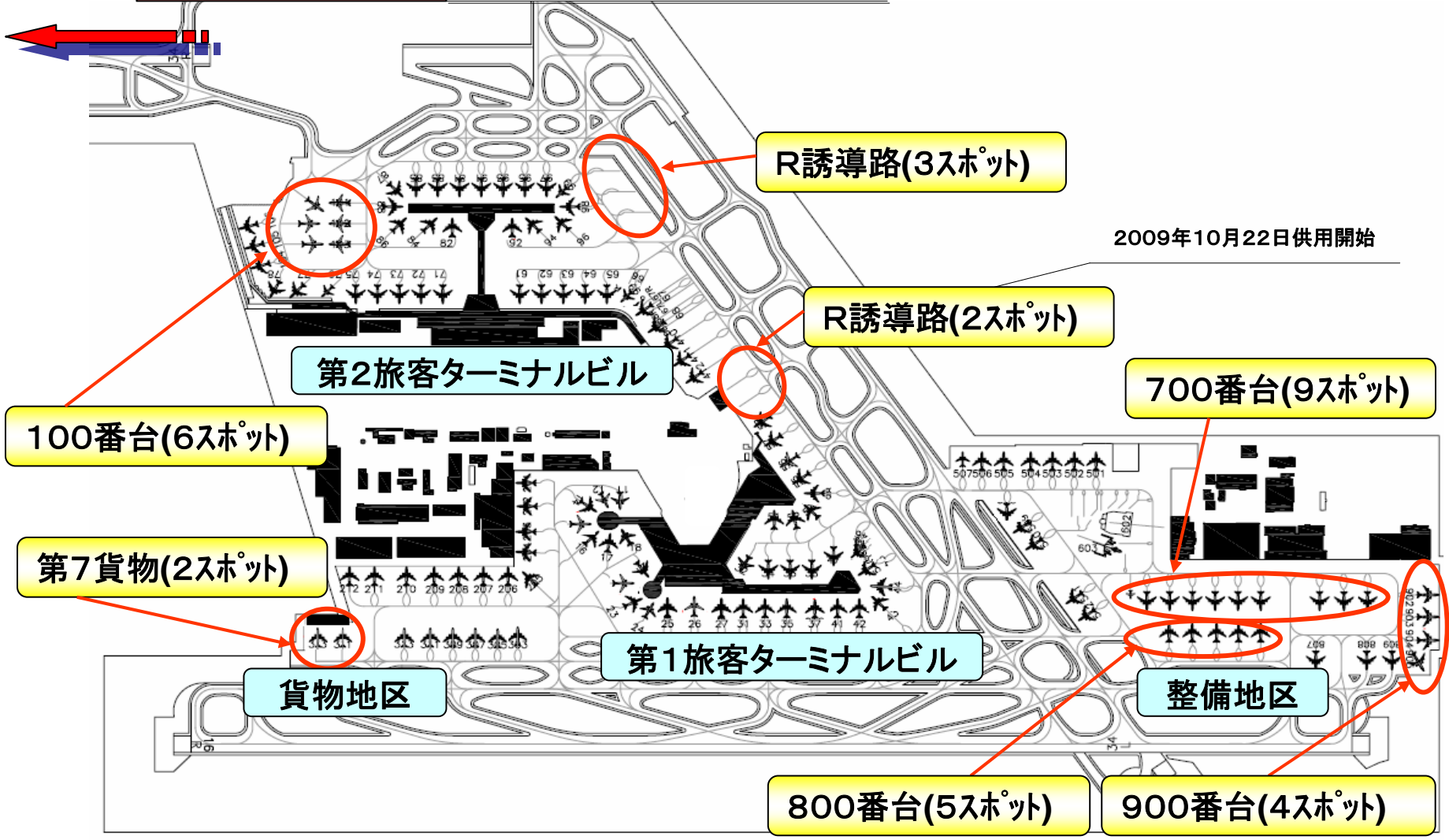


成田空港公式WEBサイトより



動力事業③ 成田空港拡張概略図

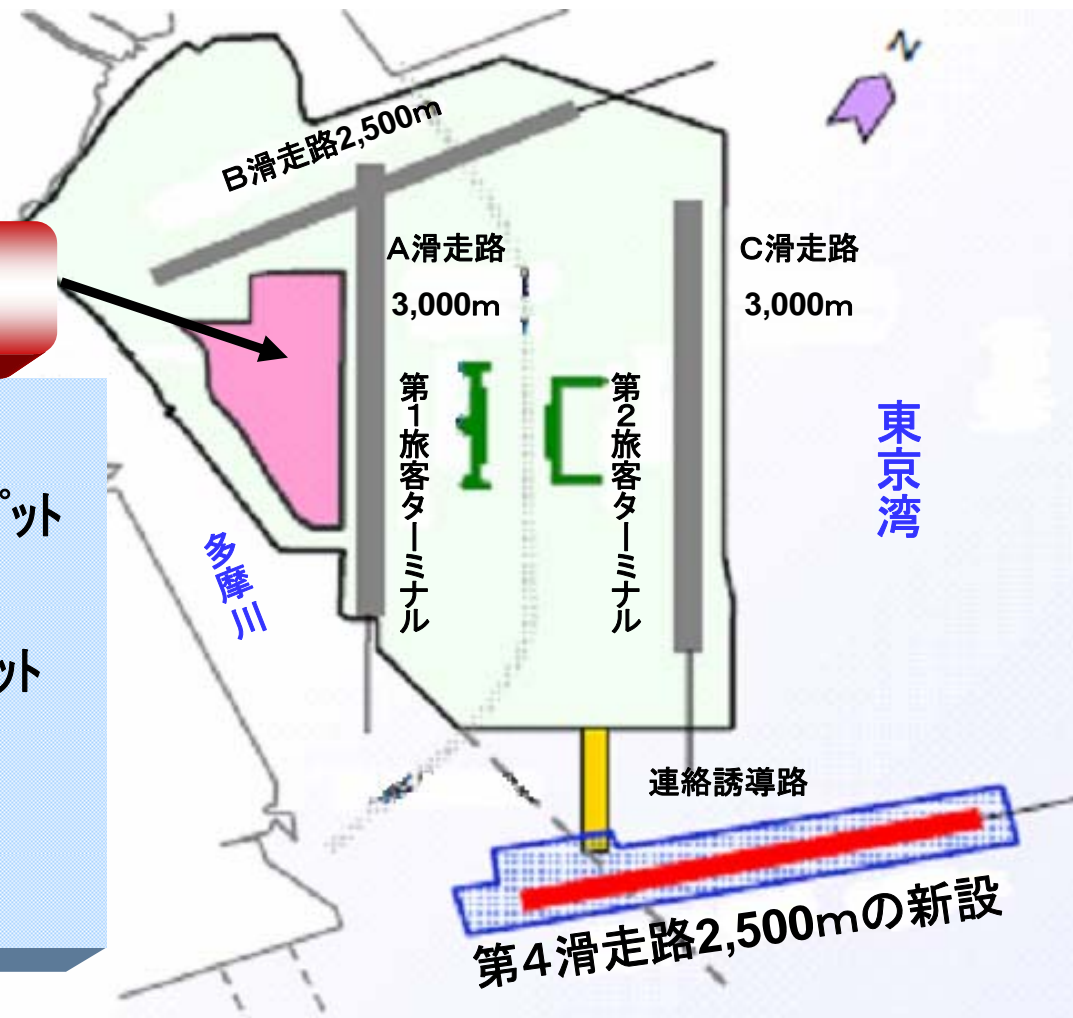
滑走路2,500m化 2009年10月22日供用開始！



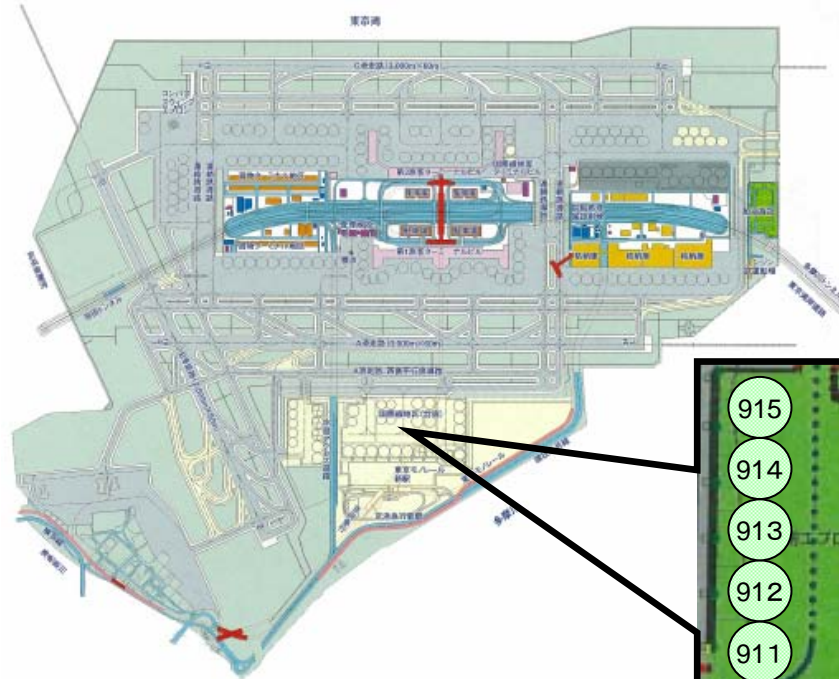
動力事業④ 羽田空港再拡張概略図

新国際線地区 (29スポット)

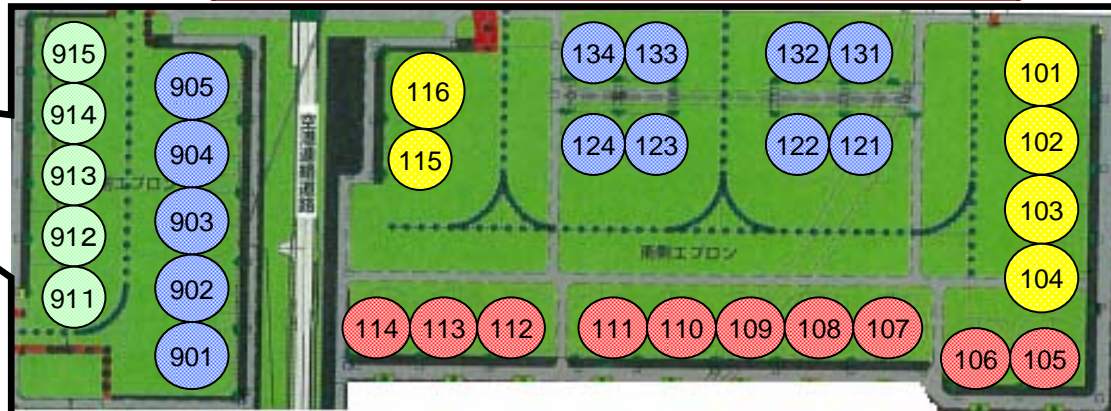
- 電気・エアコン設備設置
ターミナルビルに隣接する10スポット
- 電気設備設置
貨物地区・駐機地区の6スポット
- 埋設管設置
駐機地区の13スポット



動力事業⑤ 羽田空港再拡張概略図



新国際線エプロン 2010年10月供用開始



- 10スポット(電気・エアコン)
- 6スポット(電気)
- 13スポット(埋設管)

動力事業⑥

GPUを使用したことによる環境に対するメリット

燃料の削減

(2008年度実績)

- ・B777-200で年間約8,242往復相当
(15万キロリットル)の燃料を削減

CO₂の削減

(2008年度実績)

- ・東京ドーム 148杯相当
(年間35.9万トン)のCO₂を削減

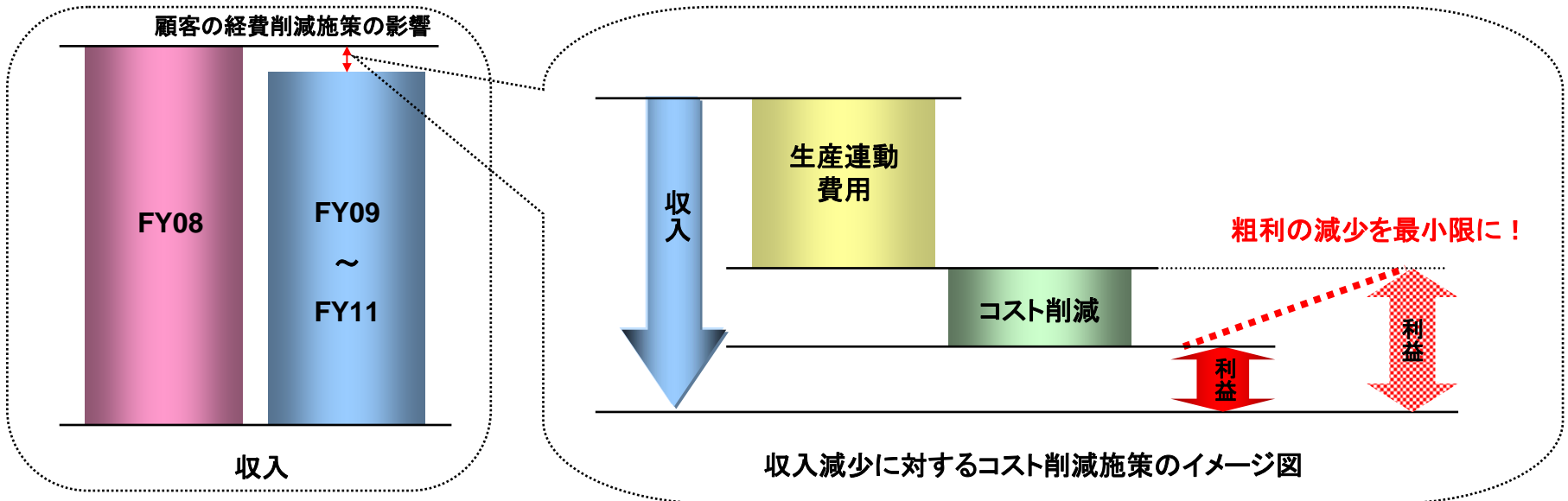
騒音の低減

- ・APUの騒音を抑え、
空港周辺地域との共生



エコエアポート化へ貢献

整備事業



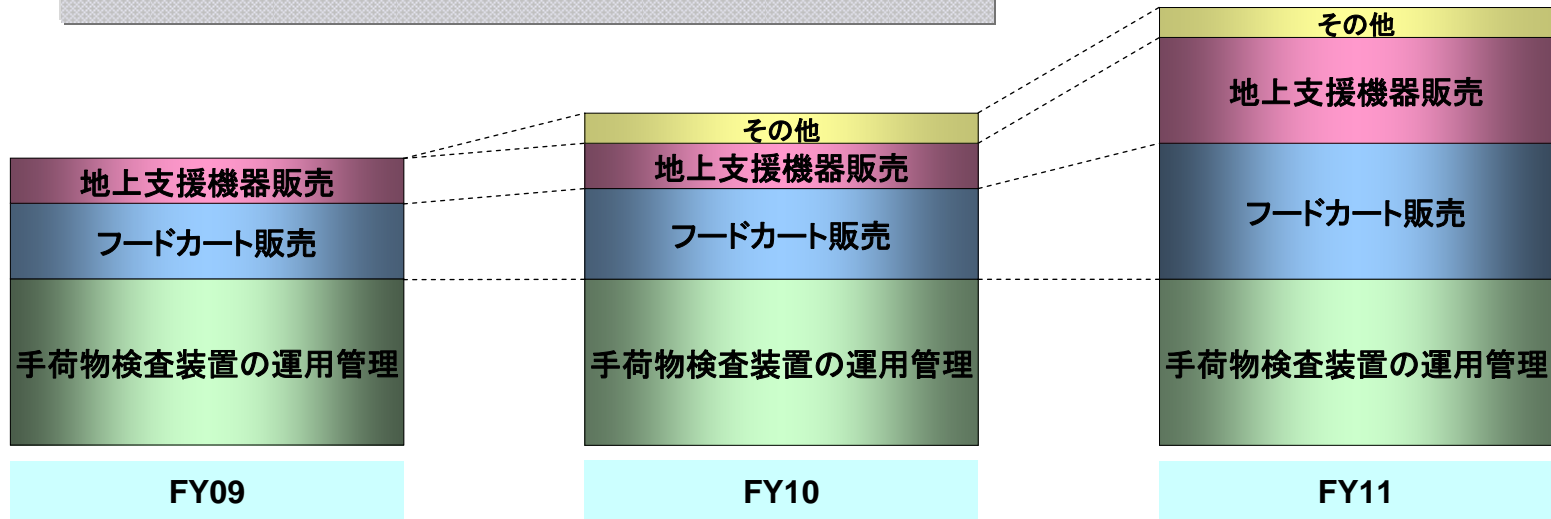
長年の技術力・ノウハウを生かした提案型営業を展開し、空港内外の新規受託拡大を図る

- 2010年 3月 千歳空港 新国際線旅客ターミナルビルの供用開始
- 2010年 4月 関西空港 国内線手荷物搬送設備インラインシステムの供用開始
- 2010年10月 羽田空港 新国際線旅客ターミナルビルの供用開始

付帯事業

FY10 フードカート販売の増、空港外メンテナンスの増

FY11 フードカート販売の増、地上支援機器販売の増



今後の取り組み

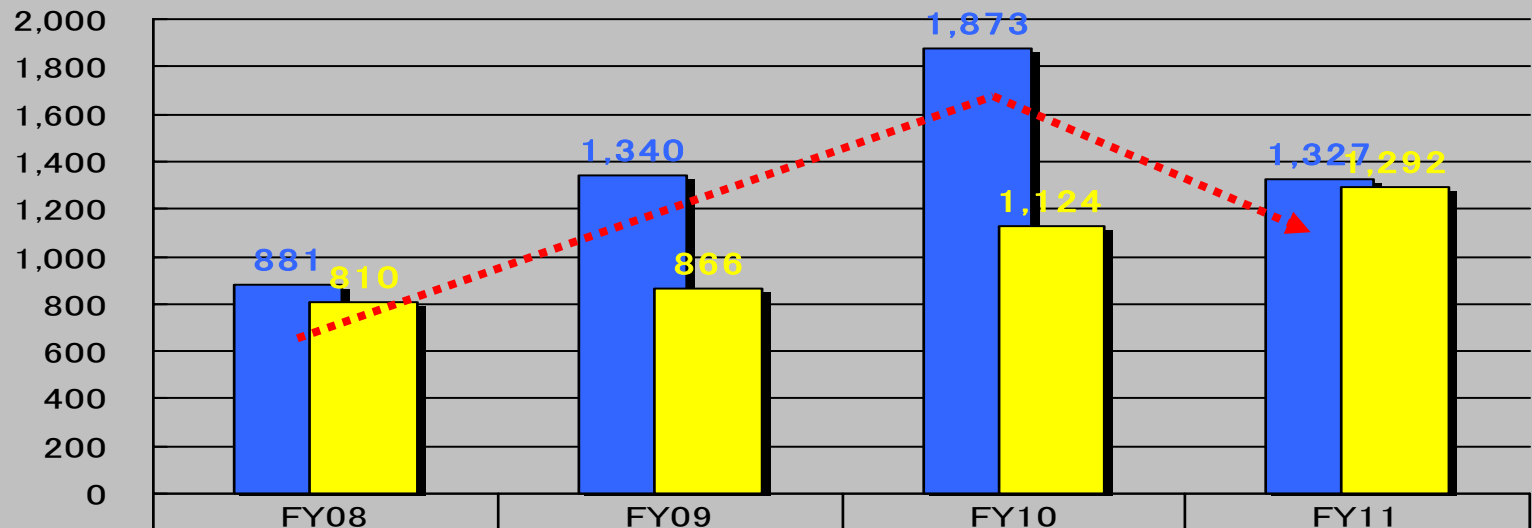
- ① フードカート事業については、顧客の要望を捉えた新商品の開発、新規・買替需要案件への営業を促進しつつ、生産・メンテナンス体制を更に効率化する
- ② 中部空港での新型航空機用駐機スポット増設工事や、各空港での受託手荷物検査装置等の更新に伴う設置工事・保守の受託拡大を図る
- ③ 航空機地上支援機器販売については、種類の絞込みによる効率的な販売を推進する

中期設備投資計画

■ 設備投資額
■ 減価償却費

(単位:百万円)

設備投資と減価償却の推移



2010年度に羽田空港新国際線地区、成田空港の発着容量増加に伴う動力供給設備増設の設備投資がピークを迎える。
2011年度以降、新型航空機の就航状況を勘案し、計画的な更新投資を行う。

当社事業の概要

2009～2011年度 中期事業計画

第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

2010年3月期 第2四半期累計業績

(単位:百万円)

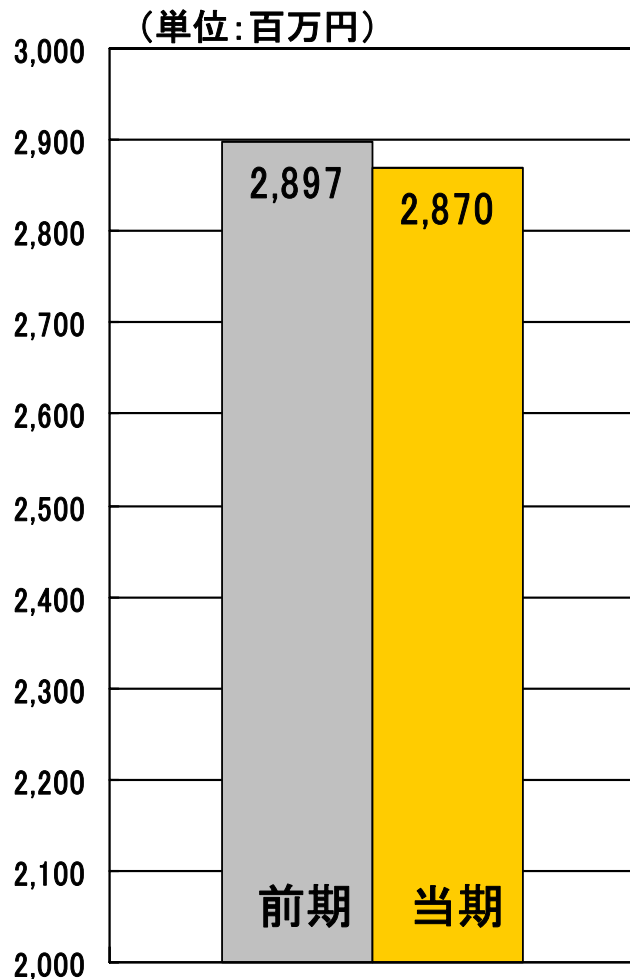
	前期実績	当期実績	対前期比 増減	
売上高	5,646	5,386	△260	95.4%
売上総利益	746	682	△63	91.4%
販管費	449	446	△3	
営業利益	296	236	△60	79.8%
営業外損益	▲20	▲25	△5	
経常利益	276	211	△65	76.4%
特別損益	▲5	▲4	1	
税引前四半期純利益	270	206	△63	
四半期純利益	154	98	△55	63.8%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ① 動力事業

2,870百万円

前期比 $\Delta 27$ (99.1%)



<主な増減要因>

- ① 関西空港の減便の影響
- ② 国内社のGPU使用徹底による増

<支店別>

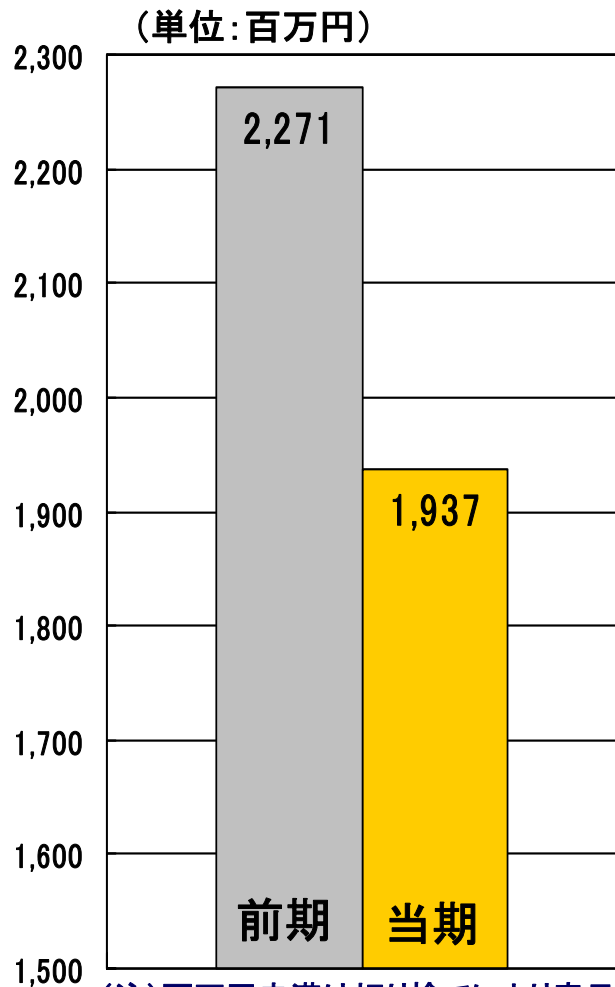
関西 $\Delta 76$
 福岡 $+14$
 羽田 $+11$
 成田 $+10$
 伊丹 $+4$

(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ② 整備事業

1,937百万円

前期比 $\Delta 334$ (85.3%)



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

<主な減要因>

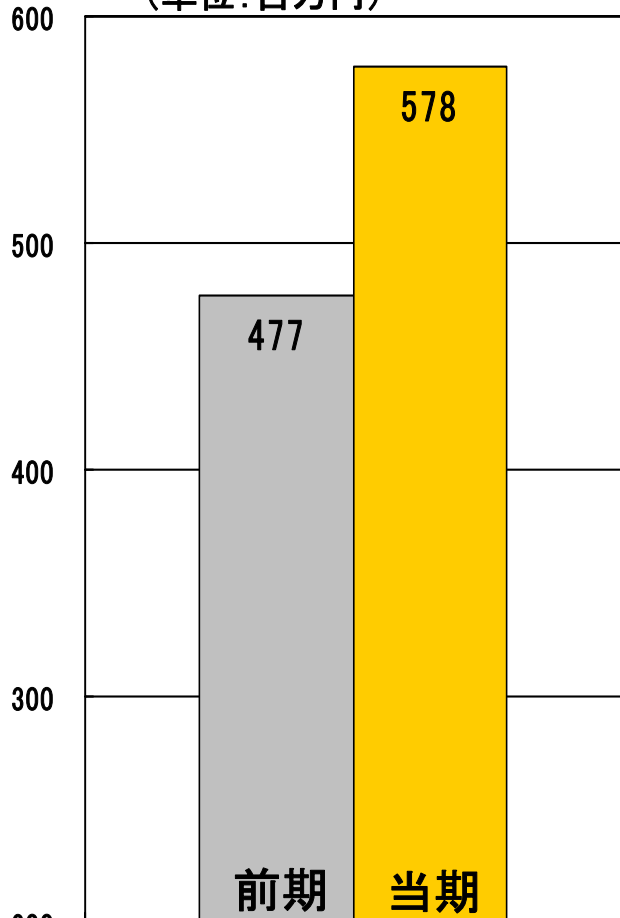
- 成田 $\Delta 141$ 更新・修繕工事の減
- 関西 $\Delta 110$ 補修工事の出遅れ
- 沖縄 $\Delta 43$ ホテル保守契約の減
- 中部 $\Delta 17$ 更新・修繕工事の減
- 羽田 $\Delta 17$ 更新・修繕工事の減

売上高 ③ 付帯事業

578百万円

前期比 101 (121.2%)

(単位:百万円)



<主な増減要因>

本社	+116	フードカートの販売増
	+6	航空機用地上支援機器の 販売増
成田	+14	受託手荷物検査装置 運用管理の通年化
	△25	保安装置移設作業等の減

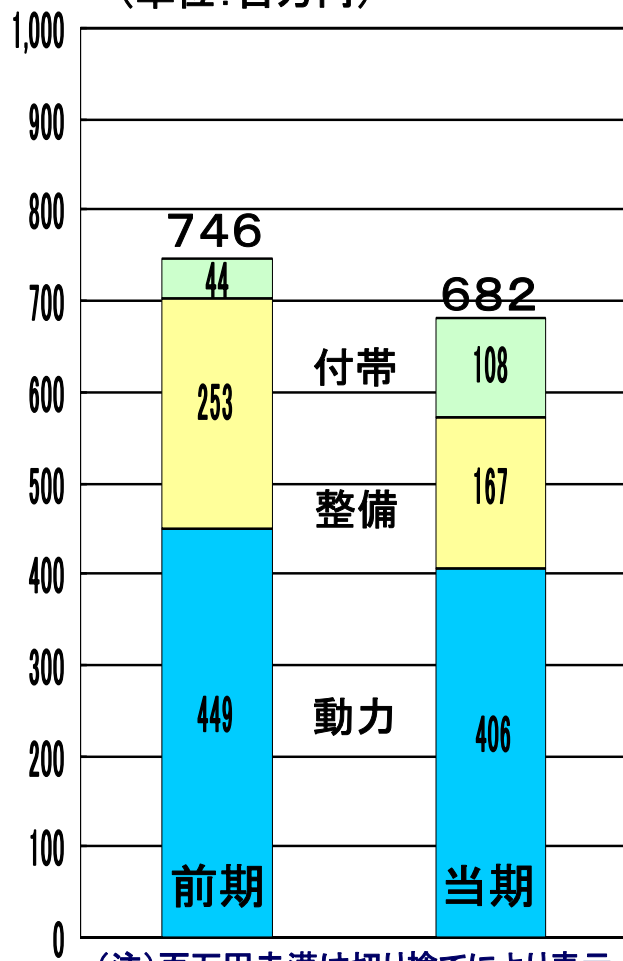
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上総利益

682百万円

前期比 $\Delta 63$ (91.4%)

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

<セグメント別 主な増減要因>

動力事業 406百万円 (前期比 $\Delta 42$)

- ・整備維持費の増 +45
- ・HND新国際線地区
工事用地賃借料の増 +13

整備事業 167百万円 (前期比 $\Delta 85$)

- ・販売外注・材料費の減 $\Delta 131$
- ・労務費・委託役務費の減 $\Delta 108$

付帯事業 108百万円 (前期比 +64)

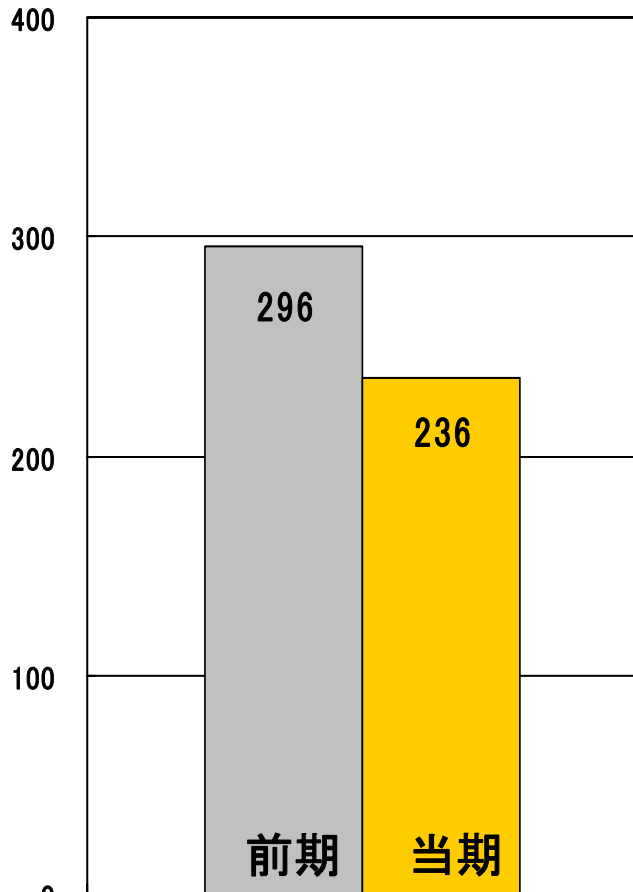
- ・販売材料・外注費の増 +65

営業利益

236百万円

前期比 $\Delta 60$ (79.8%)

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

<主な増減要因>

売上総利益の減 $\Delta 63$

労務費の増等による
販売費及び一般管理費の減 $\Delta 3$

経常利益／四半期純利益

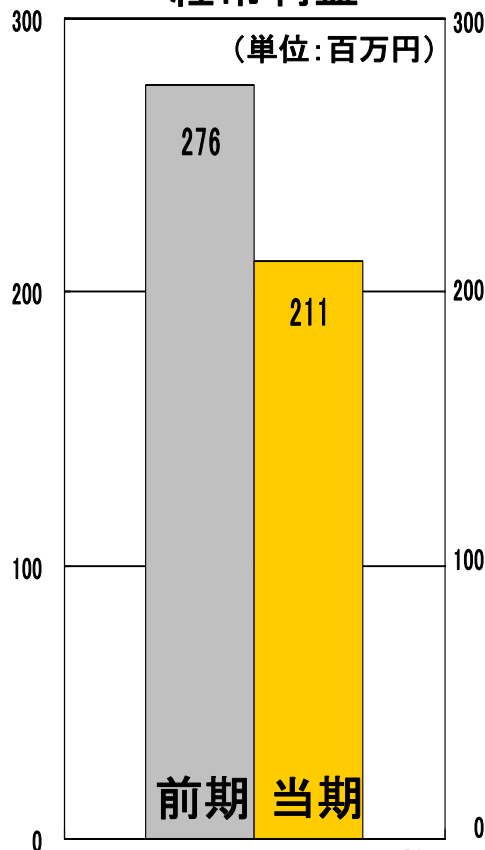
経常利益

211 百万円 前期比 $\Delta 65$

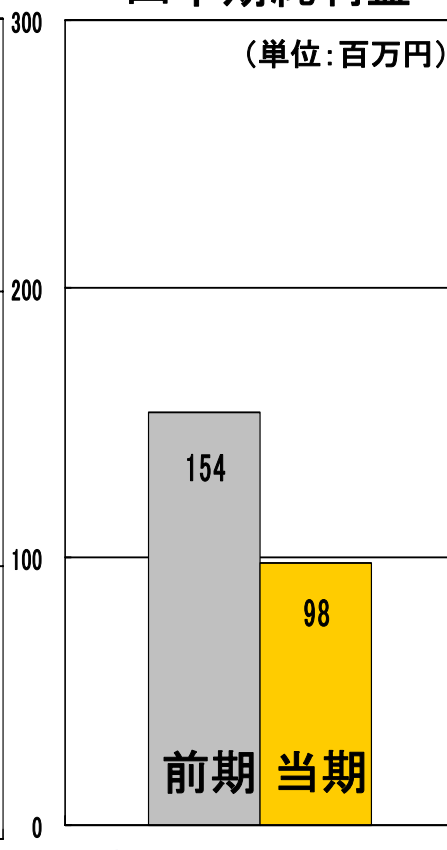
四半期純利益

98 百万円 前期比 $\Delta 55$

経常利益



四半期純利益



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

< 経常利益の減要因 >

営業利益の減 $\Delta 60$

営業外収益(受取保険金)の減 $\Delta 7$

営業外費用(支払利息)の減 $\Delta 2$

< 四半期純利益の減要因 >

経常利益の減 $\Delta 65$

特別損失の減 $\Delta 1$

法人税・住民税・事業税の減 $\Delta 44$

法人税等調整額の増 $+36$

2010年3月期 第2四半期累計業績(計画・修正対比)

(単位:百万円)

	当期計画 A	修正値 B	当期実績 C	増減 (C-A)	増減 (C-B)
売上高	5,560	5,388	5,386	△174	△2
営業利益	98	236	236	138	0
経常利益	67	211	211	143	0
四半期純利益	38	97	98	60	1

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

平成21年10月15日に中間業績予想の変更を発表

キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

	前年同期 末	当 期	
		金 額	主な増減理由
営業活動によるCF	457	547	<ul style="list-style-type: none"> ・減価償却費 412 ・売上債権の減 315 ・法人税等の支払い $\Delta 205$
投資活動によるCF	$\Delta 278$	$\Delta 323$	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産取得 $\Delta 337$
財務活動によるCF	$\Delta 590$	343	<ul style="list-style-type: none"> ・長期借入による収入 800 ・長期借入金の返済 $\Delta 298$ ・配当金の支払い $\Delta 125$
現金及び現金同等物の増減額(Δ は減少)	$\Delta 412$	567	
現金及び現金同等物の四半期末残高	1, 554	2, 097	

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

当社事業の概要

2009～2011年度 中期事業計画

第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

2010年3月期 通期業績予想

(単位:百万円)

	前期(2008年度) 実績	当期(2009年度) 予想	対前期比 増減
売上高	11,900	11,764	△136
営業利益	960	592	△367
経常利益	909	523	△386
当期純利益	505	295	△209

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

平成21年5月13日に発表した、通期業績予想の変更なし

2010年3月期 計画値(上期・下期)

(単位:百万円)

	上期		下期	
	金額	割合	金額	割合
売上高	5,560	47.3%	6,204	52.7%
営業利益	98	16.6%	494	83.4%
経常利益	67	12.8%	456	87.2%
当期純利益	38	12.9%	257	87.1%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして
ありがとうございます。

本日配布しました資料に記載されている将来の業
績予想は、経営環境の変化などに伴い予想あるいは
目標対比が変化し得ることにご留意ください。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ



電話: 03-3747-1631

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)